

製品名: カテニン α1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08003**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CTNNA1
別名	CTNNA1; Catenin alpha-1; Alpha E-catenin; Cadherin-associated protein; Renal carcinoma antigen NY-REN-13
遺伝子 ID	1495.0
SwissProt ID	P35221
免疫原	抗血清はヒトカテニン α1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 607-656

背景

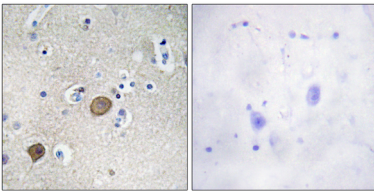
カテニン α1 (CTNNA1) ホモサピエンス この遺伝子は、細胞膜上に存在するカドヘリンを細胞内のアクチンフィラメントに結合させ

ること細胞接着過程において重要な役割を果たすカテニンファミリータンパク質の一種をコードしています。コードされている機械受容タンパク質は3つのピンキュリン相同ドメインを有し、細胞骨格の張力に応じて構造変化を起こし、カドヘリン-アクチンフィラメント結合の再構成を引き起こします。この遺伝子の特定の変異は、蝶形色素変性症を引き起こします。[RefSeq 提供、2016年5月]、疾患: α -カテニンの異常は、癌の浸潤および転移の過程に関与しています。機能: 様々なカドヘリンの細胞質ドメインと関連しています。カテニンとカドヘリンの会合により、アクチンフィラメントネットワークに連結された複合体が形成され、この複合体はカドヘリンの細胞接着特性に最も重要と考えられる。細胞分化において重要な役割を果たす可能性がある。PTM: SUMO化。類似性: ピンキュリン/ α -カテニンファミリーに属する。細胞内局在: 細胞間境界、おそらく細胞-マトリックス境界に認められる。サブユニット: MLLT4 および F-アクチンに結合する (類似性による)。PSEN1 および CTNNB1 と直接相互作用し、PSEN1/カドヘリン/カテニン接着複合体の一部を形成する。ARHGAP21 および JUB と相互作用する。組織特異性: 正常組織において普遍的に発現する。

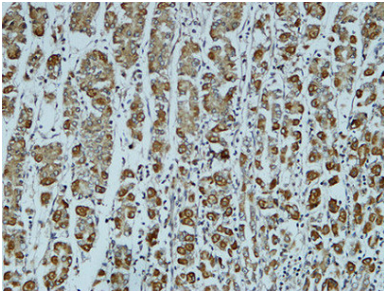
研究分野

Adherens_Junction;Adherens_Junction;白血球の内皮透過移動;がんにおける経路;子宮内膜がん;不整脈性右室心筋症 (ARVC);

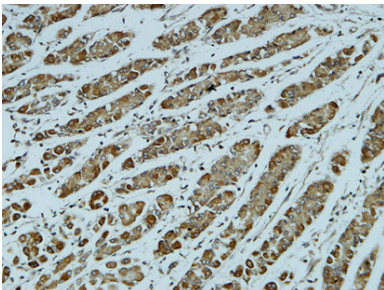
画像データ



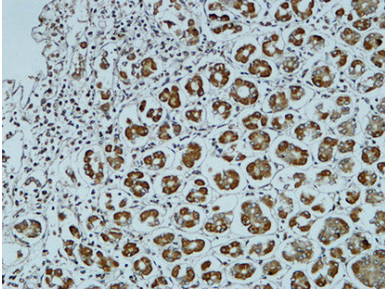
カテニン $\alpha 1$ 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ 、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ 、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。